



信頼と責任

もっと頼られる行政書士をめざして

茨城県行政書士会 会長

國井 豊

会員の皆様、いかがお過ごしですか。お伺いいたします。

日頃は会運営ならびに行政書士制度の推進に対し、ご理解ご協力を賜り、本当にありがとうございます。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

月日の流れは早いもので、気忙しい師走、年明けも束の間、今年も4分の1が過ぎ去りました。企業であれば、4半期ごとの決算によって、過去における“今”との乖離を、総括しなければなりません。誰しも、節目各々、特に元日には一年の目標や計画を定め、新たな誓いのもと、発奮されることと思います。しかし、その計画の中に、歩んだ道のり確かさを確認し、軌道修正する作業を位置づける方は、数少ないのではないのでしょうか。夢、希望、目標、そして節目各々の誓いを形にするには、面倒で軽視されがちなの「作業」こそが、小急がば回れ、とても大切な気がしてなりません。日々反省、とまではいきませんが、企業よりも小回りが利く分緻密に、少なくとも一月ごとの自己評価を、一度試してみたいかがですか。数か月先には、違う自分がいることでしょうか。もちろん、大きな飛躍をともなっています...

ところで、すべての人に平等といわれる時間は、2つの定義があるそうです。ひとつは、

私たちが通常「時間」とよんでいる前の1分、今の1分、次の1分と、機械的にそして等価に過ぎ去っていく絶対時間、いわゆるニュートン時間です。もう一つは、ほとんどの方々が経験されている「なにかに集中し、時計をみるともうこんな時間か」とか、「義務化された講習に参加し、驚くほど時計が進まない」など、その使い方によって、それぞれの時間の価値が著しく変わってくるアインシュタイン定義の相対時間です。皆さんは、時間を有意義なものにするため、どちらの定義を取り入れますか？

閑話休題。次の総会では役員改選があり、現理事会としての役割も、ゴール目前です。これまで、制度のさらなる推進という御旗のもと、積極的な取り組みを図ってきたつもりですが、振り返ってみれば、試行錯誤の連続、反省することしきりです。いつの時代も、制度や組織の拡充には、その構成員、いわば会員の一致結束が、必要不可欠です。人は変わりますが、理念は不変です。制度推進が国民の利益に変わるという大義のもと、大きく飛躍し、期待される行政書士像をめざして、最後までその責務を果たしてまいりたいと思います。

会員の皆様のより一層のご理解、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。